学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		看護研究Ⅱ				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	1単位	時間数	30時間
教員名		小野晴子　横濱由紀子　小笠原ミヨ子　佐藤美枝　石川典子 藤原美穂　池田妙子　畑野真弓　竹村亮祐　松尾栄					
授業目的		研究のプロセスを通して研究に必要な知識や技術を身につけ、研究の必要性や重要性を理解し、看護の質の向上に役立つ研究能力を学修する。					
到達目標		1)看護の課題について看護研究の必要性が理解できる。 2)研究計画書ができる。 3)データの収集・分析を理解できる。 4)研究論文を作成し、発表ができる。					
授業の概要		研究計画に基づいて倫理的配慮を遵守し、研究活動を実施する。 また、プレゼンテーション能力を身につけ、発表方法の体験できる。 (口頭・ポスター)					
成績評価		研究過程状況　提出物　結果発表の総合評価					
教科書等		系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院					
自己学習		看護研究の教科書を読む。					
留意事項(持参品等)		個人およびグループでまとめる。					
授業計画(授業内容)		第1回　看護研究Ⅰの総括					
		第2回　研究計画書の作成・・・研究目的　題名					
		第3回　研究計画書の作成・・・研究デザイン　用語の定義					
		第4回　研究倫理・データの収集・分析					
		第5回　研究倫理・データの収集・分析					
		第6回　研究倫理・データの収集・分析					
		第7回　研究デザインにそってまとめ、報告方法を決定する。					
		第8回　研究デザインにそってまとめ、報告方法を決定する。					
		第9回　研究デザインにそってまとめ、報告方法を決定する。					
		第10回　発表の準備　(PW・ポスター作成)					
		第11回　研究発表					
		第12回　研究発表					
		第13回　研究発表					
		第14回　研究発表					
		第15回　看護研究Ⅰ・Ⅱの総括及び評価					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		看護管理				統合分野	
学年	3年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
教員名		村上　重子					
授業目的		看護におけるマネジメントの概要を理解し、看護管理の重要性を学修する。マネジメントに必要な知識と技術を学び、対象者への看護の提供ができるよう看護の基本を学修する。					
到達目標		1）看護におけるマネジメントの概要を理解できる。 2）看護管理の重要性が理解できる。 3）看護のマネジメントに必要な知識と技術が理解できる。					
授業の概要		看護を取り巻く諸制度のもとに看護管理の概念について学び、マネジメントに必要な知識と技術について理解する。看護ケアマネジメントの要素に含まれる医療安全についても理解する。					
成績評価		レポート30%　　終講試験70%の総合評価とする。					
教科書等		上泉和子他：看護の統合と実践[1]　看護管理（医学書院）					
自己学習		医療安全・リスクマネージメントの復習する。					
留意事項（持参品等）							
授業計画（授業内容）		第1回　看護とマネジメント					
		第2回　看護サービスのマネジメント					
		第3回　看護管理の定義					
		第4回　人材・物品・情報のマネジメント					
		第5回　組織におけるリスクマネジメント					
		第6回　看護を取り巻く諸制度					
		第7回　看護マネジメントに必要な知識と技術					
		第8回　まとめ・試験					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		成人看護学実習Ⅰ				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		池田　妙子　　畑野　真弓　　竹村　亮祐					
授業目的		慢性疾患を持つ患者の健康状態と特徴を理解する。また、セルフマネジメントに向けた支援についても理解する。さらに、終末期にある患者の尊厳を尊重した看護援助について体験を通して理解する。					
到達目標		1）慢性期にある患者の健康問題と療養生活に応じた看護を理解できる。 2）セルフケア能力を高める援助と在宅医療に向けての支援が理解できる。 3）終末期にある患者の看護援助が理解できる。					
授業の概要		慢性期疾患、終末期にある患者への看護の展開について理解する。受け持ち患者の実習を通して、慢性期では個別の患者を把握し、セルフケア能力を高める援助と、在宅医療に向けての支援について理解する。終末期では患者と家族の看護、実施する支援などを学修する。					
成績評価		全出席とする。事前学習、実習態度、実習内容、実習記録、課題レポートによる総合評価と評価表によって評価する。					
教科書等		指示されたテキストを使用する。					
自己学習		実習開始までに指定した事前学修と学内演習に取り組む。					
留意事項（持参品等）		実習要項を参照する。					
授業計画（授業内容）		（実習内容） ・慢性期にある患者の健康状態を理解し、患者の特徴をとらえた看護の展開を行う。 ・終末期にある患者の看護の実際、支援方法を学び、看護展開を行う。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		成人看護学実習Ⅱ				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名							
授業目的		生命危機状態から回復過程をたどる患者の看護を、クリティカルケアとともに理解する。また、リハビリテーション期の機能回復に向けた看護を理解し、患者・家族に対して必要な援助について理解する。					
到達目標		1)急性期にある患者とクリティカルな状態にある患者の理解ができる。 2)リハビリテーション期にある患者の機能回復に向けた看護援助を理解できる。					
授業の概要		急性期・リハビリテーション期にある患者の集中的な管理・治療・ケアを必要とする重篤な患者の看護や、特殊な環境下に置かれた患者の心理をとらえた看護について学修する。					
成績評価		全出席とする。事前学習、実習態度、実習内容、実習記録、課題レポートによる総合評価と評価表によって評価する。					
教科書等		指示されたテキストを使用する。					
自己学習		実習開始までに指定した事前学修と学内演習に取り組む。					
留意事項（持参品等）		実習要項を参照する。					
授業計画（授業内容）		（実習内容） ・急性期・リハビリテーション期にある患者のケアを通して特徴を理解し、 看護の展開を行う。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		成人看護学実習Ⅲ				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		竹村　亮祐					
授業目的		周手術期にある患者の看護の特徴を理解し、看護の役割や援助について理解する。身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、術後合併症を予防し、回復を促進する看護過程の展開を理解する。					
到達目標		1）周手術期にある患者の看護を理解できる。 2）クリティカルな環境特有のリスクを予測し、安全に看護を実践することが理解できる。 3)患者の置かれている状況を総合的にとらえ、手術侵襲からの回復促進と予測される合併症の予防と早期発見について理解できる。					
授業の概要		患者の置かれている状況を総合的にとらえ、手術によって変化した日常生活行動への援助を理解する。 患者の急激な症状の変化や治療、処置による日常生活の制限を理解し、基本的ニーズを充足するための援助について理解する。					
成績評価		全出席とする。事前学習、実習態度、実習内容、実習記録、課題レポートによる総合評価と評価表によって評価する。					
教科書等		指示されたテキストを使用する。					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項（持参品等）		実習要項を参照する。					
授業計画（授業内容）		（実習内容） ・周手術期に行われる特徴的な看護の展開を行う。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		老年看護学実習Ⅱ				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		横濵由紀子　池田妙子　松尾栄					
授業目的		老年看護の対象者である高齢者を全人的に理解し、健康上の課題をアセスメントする。さらに対象者の個別性を踏まえて健康課題を軽減するための看護計画を立案し、実践した看護を評価・修正することを学修する。また、対象者の継続ケアの必要性やチームケアの必要性と看護の機能を理解し、専門的に援助できる知識・技術・態度について学修する。					
到達目標		1）高齢者を対象に慢性期・周手術期・急性期の看護展開について理解できる。 2）認知症のある対象者の看護展開が理解できる。					
授業の概要		病院実習2週間のうち高齢者を通して慢性期・周手術期・急性期のいずれかを受け持ち看護の展開について理解する。 実習1週間は認知症のある対象者の看護を展開について理解する。					
成績評価		実習評価表により評価する。					
教科書等		授業で活用した教科書および資料					
自己学習		事前に高齢者の慢性期・周手術期・急性期・認知症の復習する。					
留意事項（持参品等）		対象者に不快を与えないよう十分な配慮を行う。認知症のかかわり方を学習する。					
授業計画（授業内容）		1.　実習2週間は病院に入院中の高齢者を対象に、看護展開を行う。 2.　慢性期・周手術期・急性期にあるいずれかの対象者とする。 3.　実習1週間は認知症のある対象者の看護を展開する。 　詳細は実習要項を参照する。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		小児看護学実習				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		佐藤　美枝					
授業目的		子どもの成長発達と援助が理解でき、入院や疾病が子どもと家族に与える影響と、家庭療養に向けた看護について体験を通して理解する。					
到達目標		1）小児の発達段階の特徴を知り、その発達段階に応じた援助が理解できる。 2）看護過程に沿って健康障害をもつ小児および家族への看護が展開できる。 3）小児の保健・医療・福祉について理解し、幅広く健康問題を捉え、小児看護の役割が理解できる。					
授業の概要		実習は、病院実習と保育所実習とする。記録物は指定のものを使用し、目標が達成できるよう教員と調整する。病院実習では患児を受け持ちとし、看護の展開を理解する。					
成績評価		実習評価表に準ずる。					
教科書等		指示されたテキストを使用する。					
自己学習		実習前学習を参考に学習する。					
留意事項（持参品等）		授業で活用したもの、事前学習ノート　　参考文献					
授業計画（授業内容）		1週間　　健康な小児の発達段階別の特徴を理解する。					
		2週間　　健康障害害をもつ小児とその家族への看護を実践する。					
		他実習要項を参考のこと					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		母性看護学実習				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		畑野　真弓					
授業目的		母性看護の対象を理解し妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の必要な看護を学び、健康課題を捉え、対象者がセルフケアできるように看護実践を通して母性看護に必要な基本的看護を修得する。					
到達目標		1）　母性看護の対象が理解できる。 2）　妊娠期の看護が理解できる。 3）　分娩期の看護が理解できる。 4）　産褥期に応じた看護が理解できる。 5）　新生児期の看護が理解できる。					
授業の概要		母性看護の特性と周産期である妊娠期・分娩期・産褥期と新生児期の各期の特徴を学び、看護の展開について理解する。外来実習においては妊婦検診を通して、母体の身体的・心理的変化や胎児の状況をアセスメントできる。また病棟実習では分娩の経過を学び、産褥期に起こるさまざまな変化とともに新生児の観察や必要なケアを体験的に学修する。					
成績評価		実習記録・実習内容などを総合評価とする。					
教科書等		系統看護学講座専門Ⅱ　母性看護学概論　母性看護学① 母性看護学②医学書院 参考図書　看護観察のキーポイントシリーズ母性1・2　　中央法規 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程　　医歯薬出版					
自己学習		2年時に学習したテキストおよび資料を参考に活用できるよう復習する。 保健指導等について、あらかじめ自己学習する。					
留意事項		課題学習の提出は自らの意見も含めレポートし、引用参考文献を明記する。					
授業計画（授業内容）		1 妊娠期に応じた看護					
		妊娠期の母体の身体的・心理的変化・胎児の発育状態					
		妊婦の健康診査の目的と母子健康手帳の活用方法					
		妊娠各期の保健指導の実際					
		2　分娩期に応じた看護					
		産婦とその家族への援助					
		3　産褥期の看護					
		産褥期の身体的・心理的変化					
		母子一体と考えた看護・褥婦及び家族に対する保健指導					
		4　新生児期に応じた看護					
		新生児の生理的特徴、母体外生活への適応					
		新生児への基本的な看護					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		精神看護学実習				専門分野専門Ⅱ	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員		松尾栄　横濵由紀子					
実習目的		精神科医療施設で行われている医療・看護活動の実際を学び、精神疾患をもつ人々の健康を回復する過程において、実践的な援助活動を理解し、看護過程を展開する能力について学修する。					
到達目標		1）精神科医療の実際が理解できる。 2）精神疾患をもつ対象者および家族の特徴が理解できる。 3）精神疾患患者との関係成立過程において、自己の振り返りができる。 4）精神疾患患者の看護過程を展開するための基礎的な知識・技術について理解できる。 5）精神医療における他職種と看護師の役割と機能について理解できる。					
授業の概要		精神科病院で行われている医療・看護活動の実際を体験し、精神疾患を持つ人々の健康を回復する過程おいて、健康の段階に応じた医療や看護を理解する。対象理解を深め、患者のもつ健康を回復する過程をアセスメントし、意思決定を支援する。また、生活能力を回復させるための技術を用い、地域での生活支援における看護の役割を理解する。患者の地域生活支援と自立とサポートシステム、精神疾患患者の自立と社会参加の促進、様々な職種との協働を円滑に調整する役割について理解する。					
成績評価		実習評価表により評価する。					
教科書等		講義で使用したもの　　その他実習に必要な備品					
自己学習		事前に自己学習課題を提示する。「心の健康障がいと看護」 「精神看護学概論」「精神看護学援助論」の復習をする。					
留意事項		オリエンテーション、カンファレンスを含め全出席をする。 病棟実習をしながら他の患者活動（デイケア・作業療法等）に参加する。					
授業計画（授業内容）		1.　入院中の精神に障害をもつを対象の看護展開を行う。					
		2.　治療的環境を理解するために、保護室の見学、身体拘束体験を通して学ぶ					
		3.　プロセスレコードを通して、自己のコミュニケーションの傾向、対人関係における自己の課題の明確化、自己の言動が対象者に与える影響を考察していく					
		詳細は実習要項を参照する。					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		在宅看護論実習				統合分野	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		藤原　美穂					
授業目的		在宅看護の対象者およびその家族を理解し、健康の保持増進・疾病の予防及び、QOLの向上を目指した生活の維持拡大、自立への看護活動を通して地域の保健・医療・福祉体制における看護の展開ができる能力について学修する。					
到達目標		1)在宅療養者やその家族の生活を理解できる。 2)在宅療養者やその家族の健康状態を把握し健康問題が理解できる。 3)在宅療養者やその家族を理解し在宅での援助活動の実際を通し、看護の役割について理解できる。 4)看護の継続性を理解し、社会資源活用システムや関係機関との連携について理解できる。					
授業の概要		在宅看護の対象者やその家族などの理解を深める。対象者の健康の維持・回復をめざした看護活動を理解する。また、在宅看護を提供する訪問看護ステーションが地域に存在し、保健・医療・福祉施設とのネットワークの状況を理解する。対象者が住み慣れた生活の場で生活が維持できるための援助方法を理解する。在宅ターミナルも含め対象者が在宅での生活を継続していくために必要な看護の知識技術を学び支援の在り方について理解する。					
成績評価		実習評価表に沿って行う。					
教科書等		系統看護学講座　統合分野　秋山正子他:在宅看護論(医学書院)					
自己学習		事前学習を活用する、配布された資料を活用する。					
留意事項(持参品等)		実習要項参照する。					
授業計画(授業内容)		1. 訪問看護ステーションで2週間の実習を行う					
		第1週目					
		月～木曜日　臨地での実習					
		金曜日　学内で実習の振り返りや事例の検討					
		第2週目					
		月～木曜日　臨地での実習					
		金曜日　学内で実習の振り返りや事例の検討					
		2. 地域包括センターで1週間の実習を行う					
		第3週目					
		月～木曜日　臨地での実習					
		金曜日　学内で実習の振り返りや事例の検討					
		実習期間中に連携会議や検討会議、ミーティングに参加する					
		その他　実習要項を参照する					

学科		看護学科		開講年度		令和3年度	
科目名		看護の統合と実践実習				統合分野	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		池田妙子　松尾栄　藤原美穂					
授業目的		複数の患者に対して、ケアの優先順位を判断し、自らの考えと創意工夫ができる能力について学修する。看護チームのメンバーとして他職種との連携や看護管理のマネジメントができる基礎的能力を養う。看護チームのメンバーとして夜間の看護状況を理解する基礎的能力について学修する。					
到達目標		1）複数の患者を受け持ち、個々の患者ケアの優先度を判断する必要性を理解できる。 2）保健医療チームにおける看護の役割を学び、他職種との連携や看護管理のマネジメントの必要性を理解できる。 3）夜間における患者の安全・安楽を擁護し、看護の役割について理解できる。					
授業の概要		複数受け持ちを3週間行い、個々の患者の看護の優先順位を判断する能力を養う。看護管理者とともに看護管理マネジメントの重要性について学び、夜間の患者の様子や患者のそれぞれに必要な看護を理解する。					
成績評価		実習評価に沿って実施する。					
教科書等		授業で活用した、教科書、資料					
自己学習		今までの学習の総合的な復習する。					
留意事項（持参品等）							
授業計画（授業内容）		1. 複数受け持ちの実習とし患者2人の看護展開を行う。 2. 看護管理実習を1日間行う 3. 夜間実習を1回とする。 詳細は実習要項を参照					